

# くぐり日記

太地町立博物館から



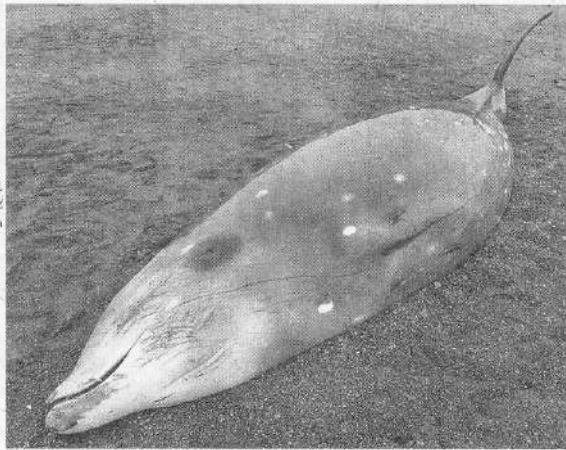
アカボウクジラは約20種の種類があるアカボウクジラ科の1種で、極地付近を除く全ての海域に分布しています。しかし、外洋の深海域に生息することや大きな群れをつくらないことなどから、生きていく姿の目撃例は比較的少なく、その生態や生活史のほとんどは謎に包まれています。種名の「アカボウ」は、「赤ん坊のような顔」から名付けられたといい、興味がかかります。この「珍鯨」のアカボウクジラが、2月4日、御坊市の通称・北浜海岸に漂着しました。発見時には死んでいたとみられます。国立科学博物館の海棲哺乳類ストラインディングデータベースによると、県内の漂着は6例目、17年ぶりということがわかりました。筆者にとっては、人生初となるアカボウクジラ調査の機会となりました。

翌5日午前9時、北浜海岸に到着しました。波打ち際には、アカボウクジラが横たわ

## アカボウクジラ漂着



漂着したアカボウクジラを調査する三重大学大学院やくじらの博物館などの関係者ら。御坊市（船坂徳子准教授提供）



御坊市の北浜海岸に漂着した雄のアカボウクジラ（同市民提供）

っています。死骸ですが、ほとんど腐敗しておらず、目立った損傷もありません。御坊市役所職員によると、数日前から、釣り人が水面でひれを出して泳ぐクジラの姿を見ていたといいます。同一個体であれば、何らかの理由で浅瀬に迷い込み、死んだ後に漂着したか、あるいは生きのままに座礁（浜に乗り上げて脱出で

きなくなる）としてその後、に死んだと考えられました。調査に同行した三重大学大学院生物資源学研究所の船坂徳子准教授は「あれほど新鮮な個体には、今後一生出会えないかもしれない」といいます。

たい円錐形の歯を二対だけ持つという特徴があります。口内はこの歯が現れるのは大人の雄だけで、この個体には認められません。このため、比較的若い個体と考えられました。雄の最大体長は7・5メートル。雄の最大体長は7・5メートル。雄の最大体長は7・5メートル。雄の最大体長は7・5メートル。

外部形態の観察や計測を終え、この希少な個体から各部位をサンプリングしました。謎多きアカボウクジラの実態が、少しずつ解明されることを期待しています。

（太地町立くじらの博物館 館長 稲森大樹）

◆ 原則、第1日曜日に掲載します。

# 謎多き実態の解明に期待